

第二回

平成三十二年度

宇都宮短期大学附属中学校

入学試験問題

国語

注意

- 1 「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は四〇分間です。
- 3 問題数は大きな問題が二問で、問題文は一ページから七ページまであります。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入してください。
- 5 「始め」の合図があったら、すぐに受験番号と氏名を解答用紙に記入してください。
- 6 試験中に質問があれば、手をあげて先生に聞いてください。
- 7 「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおいてください。

〔一〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人間の祖先であるホモ・サピエンスが森林から草原地帯に現れた時代には、アフリカにはすでにライオンやヒョウのような恐ろしい肉食動物がたくさんいた。その中に人間が現れたわけである。^①人間には角もない。牙もない。鋭い爪もない。走るのもそんなに速くはない。^②およそ武器というようなものを持たない動物である。ゴリラやチンパンジーと比べてみるとわかるとおり、本当に武器となる能力がない。こういう弱々しい動物が、よくぞライオンやヒョウなどという恐ろしい肉食獣たちがうようよしているアフリカで生き残ってこられたものだと思うと、不思議な気がする。しかし人間の祖先は、何とかして生き延びて、そしてある時期から世界中に広まっていった。

^③ いったい人間の祖先はどうやって生き延びてきたのであろうか。

よくはわからないけど、それはおそらく、人間は少なくとも百人、二百人という、相当に大きな集団をつくって生活していたからではなかっただろうか。

類人類の中でもチンパンジーは二十四匹くらいの集団をつくる。あまり集団が大きくなると分裂してしまうらしい。ボノボも似たようなもので、それほど大きな集団をつくらない。ゴリラの場合はもつと小さく、オスを中心とする家族になって生きるそうである。オランウータンはまったく単独性である。その中で人間だけが、百匹、二百匹、あるいはそれ以上という大きな集団をつくっていたと考えられる。そして集団として自分たちの身を守ることで、ほかの動物を獲得して捕らえたり、食べられる植物を探したりして生き延びてきたのではないだろうか。

そういうことができたのは、やはり人間の脳が発達していたからであろう。そのおかげで、お互い同士の複雑な関係をうまく保つていくことができ、大きな集団となつてもちゃんと生きてこられたのだらうと思われる。

^④ 人間という動物の遺伝的プログラムがどのようなものであるかを考えるとき、このことは決定的に重要なポイントになる。つまり、大きな集団の中だと、子どもたちはいろいろな人に囲まれて育つということだ。

(1)

ので、たぶん大昔から家族というものはソーンザイしていたと思われる。

る。父親、母親というヤクワリもそのころすであつただらうし、母親だけでなく父親もずつと子どもと一緒にいて、子育てに関わってきただらうと考えられる。(A)、ひとつひとつの家族がばらばらにくらしているのではなくて、洞窟などの中で入り混じって生活していたはずだ。(B) 集団として生きていた意味がない。

父親がおり母親がおり、(C) そのまわりには、祖父、祖母、おじ、おばなど、ほかの家族がいっぱいた。よそのおじさんとかおばさん、お爺さんお婆さん、(D) 兄さん姉さんにあたる者、自分より年齢の低い弟や妹にあたる者もいた。そういう中で、子どもたちは人々のやっていることを観察し、あんなことをするのか、こんなことをするのか、ということを学習しつつ、育つていったのではないだろうか。

このように集団を形成することによって生き延びてきた人間という動物には、その生き方に沿った遺伝的プログラムが組みまれていると考えるのが適当である。言い換えれば、人間の発育の遺伝的プログラムの特徴は、多くの動物とは異なつて、「集団の中で育つ」という点にあるということだ。

性別も年齢も違い、キャラクターも違う多くの人々は、皆、それぞれに違う振る舞いをしている。それは全体としてみれば人間という種の動物のやっていることであるが、その(2)性は驚くほどである。そしてこの(3)性もまた人間の特徴にほかならない。それぞれの子どもは大集団の中の(4)な人々の思い思いの振る舞いを絶えず間近に見ることによって、社会生活に必要なさまざまなことを学び取っていくのである。

大きな集団を作る動物であつた人間の社会は、すでにその当時から複雑で、人間関係もきわめて(5)であつたに違いない。もし関心がなかったら、ほかの人とどうつきあうかということは教えられてもなかなかわかるものではない。

い。多くの哺乳類^{ほにゅうるい}では、子どものころ、子ども同士の遊びの中でそれを学んでいくように遺伝的プログラムが組まれているらしく、それが動物における遊びの機能のひとつだとされている。大きくて複雑な集団をつくる人間という動物では、プログラムはもつとずっと細かく組まれていたことであろう。

集団の中で子どもたちは、大人たちのやっていることをよく見ていく。男と男が話をするときはどういうふうにするか。あるいは大人の男たちが、お爺さんと出会ったときはどうするか。女同士のときはどうするか。女と男のときはどうするか。そういうことをくわしく見ながら、どんどん学習していったに違いない。そうやって子どもたちは、人間同士のつきあい方というものを学んでいった。

そこには「しつけ」のシステムも「心の教育」^(注5)のカリキュラムもなかっただろうが、個人個人の経験と他人の行動をきっかけにする学習によって、複雑なつきあい方を身につけていったと思われる。起こりうる状況^{じきょう}はじつに多様であるから、一対一に対応した「生得的」^(注5)な行動パターンの組み込み^gということでは対応しきれない。一人一人の子どもがまわりの人々の行動を観察し、その意図^gや思いつきやギモンや、そしてそれと結びつく^hいろいろな試みや、やり方を学習していくという遺伝的プログラムが、最も有効な方法だったのであろう。

こういった学習のプログラムを、ほかの動物はおそらく持っていないはずだ。逆に言えば、人間にそういう遺伝的プログラムがあったからこそ、怖い^{こわ}アフリカで生き抜いてこられたのである。そのときにできた遺伝的プログラムは、たぶんそのまま変わらずに伝えられてきたはずである。種の遺伝的プログラムというのは、それほど容易⁶に変わるものではないから、現代に生きるわれわれにも、ちゃんとその遺伝的プログラムが備わっていると考えてよい。

(日高敏隆「人間は遺伝か環境^{かんきやう}か? 遺伝的プログラム論^{ろん}」より)

(注1) 類人類Ⅱヒトに最も近いサル仲間

(注2) ボノボⅡ類人類の一種

(注3) 遺伝的プログラムⅡ祖先の形態や性質が子孫に伝わる仕組み

(注4) カリキュラムⅡ教育計画

(注5) 「生得的」なⅡうまれつきの

問い1 Ⅱ部 a s h の漢字の読み方をひらがなで、カタカナを漢字で書きなさい。

問い2 ① 角もない。牙もない。鋭い爪もない。走るのもそんなに速くはない。とありますが、これと同じ内容を表している部分を、本文中から十一字で書きぬきなさい。(、や。も字数に数える。)

問い3 ② およそ、容易⁶にの本文中での意味は、それぞれどれですか。最も適当なものを下から選んで、記号で答えなさい。

②	およそ	ア	まったく	イ	ほとんど
		ウ	そもそも	エ	おそらく
⑥	容易に	ア	わかりやすく	イ	たやすく
		ウ	いいかげんに	エ	極端 ^{きょくたん} に

問い4 ③ いったい人間の祖先はどうやって生き延びてきたのであろうか。とありますが、「人間の祖先」が「生き延びてきた」理由として適当でないものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 単独でも、ほかの動物や植物を食料にしてこられたから

イ 大きな集団をつくることで身を守ってきたから

ウ 複雑な仲間関係をうまく保つことができたから

エ 他の動物にくらべ、脳が発達していたから

問い5 ④ 人間という動物の遺伝的プログラムとはどのようなものですか。それが書かれている一文をⅣの中から探し、最初の五字を書きぬきなさい。

問い6 (1) にあてはまる内容として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 人間の子どもが「成人」に達するまでには、細かい遺伝的プログラムを必要とするわけではない

イ 人間の子どもが「成人」に達するまでには、家族による「しつけ」を絶対に必要とする

ウ 人間の子どもが「成人」に達するのに、それほど長い時間を必要とするわけではない

エ 人間の子どもが「成人」に達するのに、なぜかわからないが十数年を必要とする

問い7 () A、Dに入れる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア [A] しかも B あるいは C また D さもなければ

イ [A] あるいは B また C さもなければ D しかも

ウ [A] また B さもなければ C しかも D あるいは

エ [A] さもなければ B しかも C あるいは D また

問い8 (2) (5)に共通して入る漢字二字の言葉を、Ⅳの中から書きぬきなさい。

問い9 ⑤ 人間の社会は、すでにその当時から複雑で、とありますが、「その当時」にあてはまらないものを本文中の~~~~~ivの中から選んで、記号で答えなさい。

問い10 次のそれぞれの文について、本文中で筆者が言いたいことと合っているものには○を、合わないものには×をつけなさい。

ア 人間が今日まで生き延びてこられたのは、ほかの動物にはない学習プログラムが備わっていたからである。

イ 人間は、他人から教えられるというよりも、自分が周囲を観察することで複雑なつきあい方を学んでいる。

ウ 人間関係は、相手の「『生得的』な行動パターン」を自分の中に組み込むことで完全に保つことができる。

エ 現代の人間がアフリカの野生動物を恐れないのは、今も種の遺伝的プログラムが備わっているからである。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ヒトミ」は、去年まで単身赴任であつた父と母の三人家族である。高校入試をあさつてにひかえた日曜日。父がつけている柑橘系のオーデコロンが気になって勉強に集中できない、と言い続けていた「ヒトミ」のために、母は朝から壁の拭き掃除をしている。以下の文章は、父がゴルフに行き、久々に一人だけの昼食を摂る場面である。

栄養のバランスとか、関係ない。カップ焼きそばだけつてのがいいんだ。去年の夏までは、これが休日おきまりのお昼ごはんだった。①「パパが知つたらぜつたい怒るよね」とか『CCレモン』も飲んでるんだから、いーんじやない？」とか、「パパ、いまごろなに食べてるんだろーね」なんてことおしゃべりしながら食べた。違う種類のを一つずつコンビニで買つてきて、途中で交換して食べ比べたりして。

お湯でふやけたメンのにおいに、ソースのにおいがからむ。(A)、キャベツの青っぽいにおいも。鼻の音を気にせずに思いつき息を吸い込むと、胸の隅々にまで空気がいきわたる。ひさしぶりにフル充電みたいな感じ。焼きそばを口いっぱいにはおぼつて、お母さんに聞こえても聞こえなくてもいい、もごもごした声で「パパ、もう単身赴任しないのかなあ」と言つてみた。返事はなかった。②拍子抜けして、でもやっぱりホッとして、顔を上げると、お母さんは焼きそばに箸をつけずに、あたしを(B)見つめてた。③怒つてると悲しんでると半分ずつの顔だった。焼きそばを呑み込むと、お母さんはあたしを見つめたまま言つた。

「今度はお母さん、いっしょに行くから」

「……あ、そう」

④軽く――言えたかな。よくわからない。ふーんすごいね。仲いいんだね。あたし的にはついてけないけどね。あたしも一人ぐらしマジしてみたかったからちやうどいいんじゃない？ ⑤声は、喉を抜けていつてくれなかった。気がつくくと、お母さんは悲しさ八十パーセントの顔になつてた。

「オーデコロンだけじゃないんでしょ？」

「なにが？」

「パパのこと」

焼きそばをもう一口、さつきよりたくさんほおばつた。

「あんた、パパと最近ぜんぜん口きいてないでしょ」

「だって、べつに用事とかないし」

「パパが話しかけても無視してるし……」

「聞こえなかったんだと思うよ」

「目も合わないじゃない」

「そんなことないよ」

「なに言つてんの、ちゃんとわかるんだから」

お母さんの言うことは正しい。(C)シカトしてたつもりだけど、バレバレだったってわけだ。あたしは箸を置いた。冷たいウーロン茶を飲んで息をつくくと、焼きそばのにおいが急にうつとうしくなつてきた。⑥

「パパって、そーゆーこと、お母さんに言いつけるひとなんだあ。サイテー。なんかさ、男のクズつて感じじゃん」

「パパはなにも言つてないわよ」

「じゃ、いまの、おかーさんのおせっかい」

「ヒトミ」声が⑦。「受験でイライラするのは勝手だけど、やつあたりなんてやめなさい」

「勝手とかって言わないでくれる？」

こーゆーのがやつあたりなんだって、わかってるけど。お母さんの顔は、悲しさ百パーセントになってた。それを見たくないから、あたしはまた箸を持って、(D) 音をたてて焼きそばをかきこんだ。

「パパね、ゴルフの帰りにお守りもらってくるって」

「なに、それ」

「ゴルフ場の近くに、なんとかっていう有名な天満宮があるのよ。ほら、天満宮って学問の神さまでしょ。帰りに寄って受験のお守りもらってくる、って」

バツカみたい。それで高校に入れるんなら、誰も苦労しないっての。焼きそば、もうおいしくなくなった。サラダとかスープとか、やつぱりつけてもらえばよかった。

「パパはお母さんから渡してくれて言ってるんだけど、ね、ヒトミ、素直にもらってあげてよね？ できるよね？ せつかくパパ、ヒトミのこと心配してくれてるんだから」

やーだよ——なんて言うとお母さんマジギレしちやいそうだから、黙って箸と口を動かした。お母さんも、話を変えた。

「掃除がすんだら晩ごはんの買い物に行くけど、なにか食べたいものある？」

「べつに、なんでもいい」

つぶやくように答えると、不意に胸が熱くなった。毎晩リビングで笑ってたじゃん、おかーさんとパパ。すげー楽しそうだったじゃん。あたしがパパに口きかないとか目を合わせないとか、お守り買ってくるとか、そんなこと話してるなんて思わないじゃん、こっちは……。

泣きたくなるのをこらえてたら、お母さんはやっと焼きそばに箸をつけて、「伸びちやつて、おいしくない」と笑った。笑ってくれたんだと思う。

(重松 清「柑橘系パパ」から)

問い1 「^①パパが知ったらぜったい怒るよね」とありますが、なぜ「パパ」は「怒る」のですか。その理由を本文中

の言葉を使って、解答らんの「くから」に続くように十字以内で答えなさい。

問い2 (A D)に入れる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア	「A さりげなく	B	じつと	C	わざと	D	ちよつとだけ」
イ	「A さりげなく	B	わざと	C	じつと	D	ちよつとだけ」
ウ	「A ちよつとだけ	B	さりげなく	C	じつと	D	わざと」
エ	「A ちよつとだけ	B	じつと	C	さりげなく	D	わざと」

問い3 拍子抜けして、^⑦やつあたりの本文中での意味は、それぞれどれですか。最も適当なものを下から選んで、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|--------|---|-------------------|---|--------------------|
| ② | 拍子抜けして | ア | 急に気がゆるんでがっかりして | イ | 話の流れが全くかみ合わなくて |
| | | ウ | 問題を一つ解決した気分がして | エ | 楽しかった気分が一気にうすらいで |
| ⑦ | やつあたり | ア | ひどく興奮して感情が高ぶること | イ | だれかれ構わずに感情をぶつけること |
| | | ウ | 一つのことしか考えられなくなること | エ | 感情があふれ出して落ち着きを失うこと |

問い4 ^③怒ってるのと悲しんでるのと半分ずつの顔とありますが、これは「お母さん」の何に対する怒りと悲しみですか。適当でないものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 自分の父を避け、毛嫌いの娘への怒りと、家族三人の心が一つにならないことに対する悲しみ
- イ 受験直前とはいえ自分勝手な態度をとる娘への怒りと、それを黙って見過ごさなければならぬ悲しみ
- ウ 自分の好きな食事を父に注意されたくらいで反発する娘への怒りと、そのように育ててしまった自分に対する悲しみ
- エ いくら家族とはいえ、あまりにも失礼な発言をした娘への怒りと、父親の気持ちを全く理解しようとしない娘への悲しみ

問い5 ^④軽く——言えたかな。とありますが、なぜ「軽く」いいたかったのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 母の思いがけない答えに動揺したことを、母に気付かれたくなかったから
- イ 母への怒りが込み上げてきたが、一方で、母をこれ以上悲しませたくもなかったから
- ウ 母が自分より父と生活することを望んでいることを知り、反発する気持ちを込めたかったから
- エ 一人ぐらしをすることを考えると不安で恐くなったが、そんな弱い自分を見せたくなかったから

問い6 ^⑤声は、喉を抜けていつてくれなかった。とありますが、声が「抜けていつ」たとしたら、どのように話していましたか。その「ヒトミ」の会話にあたる部分を本文中から探し、初めと終わりの三字で答えなさい。(、や、なども字数に数える。)

問い7 ^⑥急にうっとうしくなってきた。とありますが、「ヒトミ」が「うっとうしく」感じた理由として適当でないものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 自分の本心を母に言い当てられたと感じたから
- イ あれこれと細かい母の口出しがうるさく感じられたから
- ウ 父の話題が中心になり、父の柑橘系のおいを思い出したから
- エ 自分は無視されていると、父が母に告げ口したと思い込んでいるから

問い8 ※に入る言葉として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア はずんだ
- イ かった
- ウ にごった
- エ とがった

問い9^⑧ 泣きたくなるのをこらえてとありますが、このときの「私」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 本当は父からお守りを受け取りたくないが、母の心情を考えると、今、泣くわけにはいかないうち思う気持ち
- イ 父を避けていた自分だが、実際には自分だけ仲間はずれにされていたことに対して激しく動揺する気持ち
- ウ 自分を心配してくれていた父の優しさ^{やさ}を知り、そんな父を悲しくさせていたことをつらく感じる気持ち
- エ 知らないところで、勝手に自分のことを話題にしていた両親に対してこみあげてきた悲しみの気持ち

問い10^⑨ 笑ってくれたんだと思う。とありますが、なぜ「笑ってくれた」と感じられたのですか。最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア お守りを受け取れることを断らなかつた娘への、母の精一杯^{せいいつぱい}の感謝が伝わってきたから
- イ 娘が泣いてしまわないように明るい雰囲気^{ふんいき}を演出する、母の思いやりに気付いたから
- ウ 娘の気持ちにも気付かず、毎晩二人で楽しく会話をしていた両親にしつとしたから
- エ 夫に気をつかっている上に、娘の機嫌^{きげん}にまで振り回^ふされる母に同情したから

問い11 この文章の中で、主人公の心情の移り変わりを表現するのに最も効果的なやくわりを果たしている事物を探し、本文中から四字で書きぬきなさい。